

熊本日日新聞 読者の広場 若者コーナー

令和3年9月30日掲載

2年1組 田中 りお

「私の命救ってくれた祖父」

私は家族に感謝することがたくさんあります。その中に、私の命を救ってくれた家族もいます。それは祖父です。

私がまだ0歳の時、祖父が保育園まで連れて行ってきていて、私を抱えて歩いていたらとき転んでしまったらしいのです。

普通なら抱えられている私の体がつぶれてしまいそうですが、祖父は自分の肩から転び、何針も縫う大けがをさせていただきました。私は無事でしたが、祖父は何年も続けてきた仕事を辞めることになったそうです。

それを小学2年生の時に聞いて、自分に責任を感じました。でもそんな時、父から「じいちゃんは痛くても、『孫がけがしていない』と聞いて、笑っていたよ」と言ってくれたので、とてもうれしくなりました。

祖父は、「私が死なないように」というより、「私が未来の生活で不自由にならないように」「私が自分を嫌いにならないように」と、自分を犠牲にして助けてくれたんだなと思っています。

家族の助けがあって命が助かったことは、ほかにもまだあると思います。だから、命の大切さも、明日のありがたさも、家族の温かさも忘れずに、生きていきたいと感じました。